



氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 11-1

問1)

鋼材を生産、販売する(株)富山工業では等級製品である製品A-1、製品A-2および製品A-3を量産し、等級別実際総合原価計算を採用している。以下の当社の今月の資料にもとづき、解答用紙の勘定記入を完成するとともに、各等級製品の完成品単位原価を計算しなさい。

(資料)

1.生産データ

月初仕掛品	500本	(0.6)
当月投入	5,300本	
合計	5,800本	
月末仕掛品	800本	(0.8)
完成品	5,000本	

- (注1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。
 (注2) () 内の数値は加工費進捗度である。
 (注3) 月末仕掛品の評価は平均法による。

2.原価データ

	直接材料費	加工費
月初仕掛品原価	200,000円	111,000円
当月製造費用	2,178,000円	2,088,600円

3.等級品の内訳と等価係数(等価係数は1個あたりの太さ(直径)を使用する)

- 製品A-1: 2,000本(太さ直径1.5mm/本)
 製品A-2: 2,000本(太さ直径1.6mm/本)
 製品A-3: 1,000本(太さ直径1.8mm/本)

解1)

(単位:円)

仕掛品		完成品総合原価	
月初仕掛品原価		製品A-1	
直接材料費	200,000	製品A-2	
加工費	111,000	製品A-3	
計	311,000	計	
当月製造費用		月末仕掛品原価	
直接材料費	2,178,000	直接材料費	
加工費	2,088,600	加工費	
計	4,266,600	計	
	4,577,600		

製品A-1 円/本製品A-2 円/本製品A-3 円/本



氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 11-2

問1)

当工場では、等級製品のX製品とY製品を量産し、等級別実際総合原価計算を採用している。以下の今月の資料にもとづき、各問いに答えなさい。

(資料)

1.生産データ

	製品X	製品Y
月初仕掛品	625台 (0.4)	500台 (0.25)
当月投入	1,000台	750台
合計	1,625台	1,250台
月末仕掛品	375台 (0.8)	250台 (0.5)
完成品	1,250台	1,000台

(注1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。

(注2) () 内の数値は加工費進捗度である。

(注3) 月末仕掛品の評価は、両等級製品ともに平均法による。

2.原価データ

	製品X	製品Y
月初仕掛品原価	原料費	873,600円
	加工費	496,620円
当月製造費用	原料費	8,736,000円
	加工費	9,435,780円

3.等価係数

	製品X	製品Y
原料費	1.0	0.8
加工費	1.0	0.6

【問1】 製品Xと製品Yの月末仕掛品原価、完成品総合原価及び完成品単位原価を計算しなさい。

ただし、等級別計算は、各等級製品の月初仕掛品原価と当月製造費用の合計額を等価係数を使用した各等級製品の完成品、月末仕掛品へ按分する方法による。

【問2】 製品Xと製品Yの月末仕掛品原価、完成品総合原価及び完成品単位原価を計算しなさい。

ただし、等級別計算を行なうにあたり、等価係数は当月製造費用を各等級製品に按分する段階で使用する。

解1)

【問1】 製品X

月末仕掛品原価 円完成品総合原価 円完成品単位原価 円/kg

製品Y

月末仕掛品原価 円完成品総合原価 円完成品単位原価 円/kg

【問2】 製品X

月末仕掛品原価 円完成品総合原価 円完成品単位原価 円/kg

製品Y

月末仕掛品原価 円完成品総合原価 円完成品単位原価 円/kg